

事務事業マネジメントシート(平成25年度実績と平成26年度計画)

平成26年 5月23日 更新

事務事業名		主要地方道大津植木線バイパス建設促進期成会運営事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	1	人々が安全に安心して暮らせるまちづくり			所属部	事業部	課長名	水野孝春
	施策	5	道路ネットワークの充実			所属課	建設課	担当者名	二瀬義継
	基本事業	13	計画的な道路の整備			所属班	管理計画班	(内線)	2252
予算科目		会計一般	款8	項1	目1	事業連番10067	法令根拠	成果優先度評価結果 : ⑧ コスト削減優先度評価結果 : ⑥	
終了、開始年度		☐ 25年度で終了 ☐ 25年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	主要地方道大津植木線と国道387号が交差する辻久保周辺(栄～野々島)の渋滞解消と産業流通の促進に向けて新たにバイパスを建設し、安全、安心、迅速性を確保する。 平成11年度に旧合志町・西合志町議員の会合の席で、辻久保地区渋滞解消のためのバイパス建設を期成会を作って県へ要望していこう、という申し入れから、旧2町で期成会(事務局 合志市)が設立された。19年度で県事業としてのバイパス建設が決定され地元説明会、測量が開始された。事業期間は概ね10年間とされているが地域の実情と合併支援道路としての機能向上をはかるため早期の完成が待たれる。また、本事業の実施に伴い現道の歩行者対策を本市に一任されているため調査を行い最善策を見出すことが必要である。
【業務の流れ】	合併を期に、この県道沿線の地元区長及び終点側の植木町にも期成会に加入いただいて行政・議会・住民と一体になって事業主体である県へ要望を実施している。19年11月にバイパスのルートが決定され、12月には本事業に関する地元説明会が実施されており、20年1月から事業開始している。今後は事業の早期完成に向けた要望活動と地元既存道の歩行者対策を進める。
【主な予算費目】	負担金補助及び交付金として、負担している。
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	現道の渋滞解消はバイパスが完成しないと解決しない。また、歩道が設置されていない部分があり早急に対処してもらいたいという要望が寄せられている。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
①手段(主な活動) 25年度実績(25年度に行った主な活動)(DO)		26年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
・総会を開催しました。 ・県に要望をしました。 ・負担金の支払いをしました。		・総会の開催・県への要望・負担金の支払い	
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ ア:総会への出席	回		
→ イ:要望活動	回		
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)	
県道大津植木線	線	→ ア:県道大津植木線バイパス	
		→ イ:	
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)	
バイパス建設の早期完成	回	→ ア:県への要望回数	
		→ イ:	
*③成果指標設定の理由と26年度目標値設定の根拠			総トータルコスト
バイパスの早期完成に向け、財源の確保等を引き続き県へ要望を行っていく。			全体計画
			～ 年度
			0

(2)各指標・総事業費の推移		単位	23年度実績(決算)	24年度実績(決算)	25年度目標(当初予算)	25年度実績(決算)	26年度目標(当初予算)	27年度予定	28年度見込	29年度見込
①活動指標	ア	回	1	1	1	1	1	1	1	1
	イ	回	1	1	1	0	1	1	1	1
②対象指標	ア	線	1	1	1	0	1	1	1	1
	イ									
③成果指標	ア	回	1	1	1	0	1	1	1	1
	イ									
投資入費量	事業内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
	一般財源		千円	100	50	10	10	10	10	10
		(A)事業費計	千円	100	50	10	10	10	10	10
		(A)のうち指定経費	千円	100	50	10	10	10	0	0
	人件費	(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人	2	0	2	4	2	2	0
		延べ業務時間	時間	350	0	350	370	350	350	0
トータルコスト(A)+(B)	(B)人件費計		千円	1,413	0	1,424	1,474	1,424	1,424	0
			千円	1,513	50	1,434	1,484	1,434	1,434	10

事務事業名	主要地方道大津植木線バイパス建設促進期成会運営事業	所属部	事業部	所属課	建設課
-------	---------------------------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部（SEE）

*原則は25年度的事後評価、ただし複数年度事業は25年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①25年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②26年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 国の交付金配分等、財源は確保しつつある。引き続き早期完成へ要望を行っていく。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 バイパス事業の早期完成を図るうえで今後も事業継続が必要。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他に類似団体がない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 19年度でバイパス建設の事業が採択され、期成会としての目的が一步進んだ形となった。今後は県の事業を見守りながら事業予算の確保等の要望を続ける必要がある
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 県及び議会・区長・植木町・県議等との折衝を行うのに、正職員以外では出来ない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 地域間交流を促進する幹線道路の建設要望であり、受益者である道路利用者すべてに恩恵があり公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 県及び議会・区長・植木町・県議等との折衝を行うのに、正職員以外では出来ない。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

県に対し、事業の早期着工と地元区からの要望を伝えることができた。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																								